

0.56%、0.32%であった ($p<0.05$)。

D. 考察

わが国の新生児心肺蘇生法の現状としては、基本となる保温や気道開通に関する意識は高く、設備も整っている。一方、問題点としては、特に一般施設において蘇生用医療機器や薬剤を常備していない施設も多いことが挙げられる。新生児心肺蘇生法の研修システムへの要望も強く、その構築が待たれる。

また、低アプガースコア児の頻度は1~2%であったが、有意に一般施設で頻度が低かった。専門施設に、よりハイリスク症例が集まっていることが原因の一つと考えられるが、アプガースコアの判定法も含め、今後の詳細な検討が必要である。

E. 結論

新生児心肺蘇生法の研修システムの構築が必要である。

F. 健康危険情報：なし。

G. 研究発表

1. 論文発表：別紙参照。
2. 学会発表
第42回日本周産期・新生児医学会学術集会で発表予定。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし。
2. 実用新案登録：なし。
3. その他

雑誌

1. 和田雅樹、田村正徳. FGR の新生児期の

予後. 臨床婦人科産科. 59 巻 12 号, 1620-1623, 2005.

2. 和田雅樹、田村正徳. 超低出生体重児の呼吸管理. 小児外科. 38 巻 1 号, 11-15, 2006.

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
アウトカムを指標としベンチマーク手法を用いた質の高いケアを提供する
「周産期母子センターネットワーク」の構築に関する研究

分担研究報告書

小児科・産科医・助産師・看護師向けの新生児心肺蘇生法の研修プログラムの 作成と研修システムの構築とその効果に関する研究 —全国の分娩施設における新生児心肺蘇生の実態調査—

研究協力者 和田雅樹 埼玉医科大学総合医療センター講師
分担研究者 田村正徳 埼玉医科大学総合医療センター

研究要旨

日本周産期・新生児医学会専門医研修指定施設と埼玉県産婦人科医会会員施設を対象に新生児心肺蘇生の実態調査を行った。

A. 研究目的

1. わが国の新生児心肺蘇生の実態調査

わが国で新生児心肺蘇生法講習会を実施した場合の効果判定を行うため、実施前の新生児心肺蘇生、および新生児仮死の実態を明らかにする。

2. 新生児心肺蘇生法講習会の効果

新生児心肺蘇生法講習会における受講生の理解度・到達度を明らかにする。

B. 研究方法

1. わが国の新生児心肺蘇生の実態調査

(1) 日本周産期新生児医学会・周産期（新生児）専門医施設（暫定基幹・指定）の産科部門に対し、新生児心配蘇生の体制、医療機器、薬剤、新生児仮死の発生頻度などに関してアンケート調査を行う（後方視的研究）

(2) 埼玉県産婦人科医会会員施設に対して、

(1) と同様のアンケート調査を行う（後方視的研究）。

2. 新生児心肺蘇生法講習会の効果

新生児心肺蘇生法講習会にプレテスト、ポストテストを行い、理解度を評価する。講習受講者の同意を得て行う。

C. 研究結果 (** $p<0.01$, * $p<0.05$)

1. わが国の新生児心肺蘇生の実態調査

アンケートに関して、専門医施設・産科部門からは150施設（265施設中、56.0%）、産婦人科医会会員施設からは57施設（回収中）から回答を得た。蘇生時に保温している施設は前者が100%、後者が97%で、保温設備は前者では89%**がラジアンウォーマーを、29%**が閉鎖式保育器を使用し、後者

いるのは79%**、50%**であった。わが国の現状

に即した新生児心肺蘇生法のガイドラインに
関しては、98.3%、94.7%が配布を希望した。
また、(1分6点以下)となった正期・過期産
児の頻度は、前者で2.2%**、後者で1.2%**胎
便吸引症候群を合併した児はそれぞれ0.5%*、
0.3%*であった。

2. 新生児心肺蘇生法講習会の効果

医師・看護師を対象とした講習会(4時間)
において、難易度を同等にしたテストでは、
プレテストの正答率(平均)は79.7%**で、ポ
ストテストは89.9%**であった。

D. 考察

わが国においては、新生児心肺蘇生では保
温は行われているものの、蘇生物品や薬剤が
常備されていない施設も多い。蘇生法の研修
システムへの要望も強く、その構築が待たれ
る。

低アプガースコア児の頻度は1~2%であっ
たが、有意に一般産科施設で頻度が低かった。

研修施設によりハイリスク症例が集まってい
ることが原因の一つと考えられるが、より詳
細な検討が必要である。

E. 結論

新生児心肺蘇生法研修システムの構築が必
要である。

F. 健康危険情報：なし

G. 研究発表

1. 論文発表：別紙参照
2. 学会発表

第42回日本周産期・新生児医学会学術集会
で発表予定。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実録新案登録：なし
3. その他

研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
和田雅樹、田村正徳	FGRの新生児期の予後	臨床婦人科産科	59巻12号	1620-1623	2005
和田雅樹、田村正徳	超低出生体重児の呼吸管理	小児外科	38巻1号	11-15	2006